

概要

小6 男子 自閉症・情緒障害学級在籍
【主訴】 ・中学校へ進学するにあたり、今後も特別支援学級の利用が適当かどうかを判断するために、現在の状態を知りたい。 ・現在は担任、交流学級の児童にも本児をよく理解してもらい、本人もののびのびやれている。進学先の中学校は他校の児童とも一緒になるので、支援学級に在籍することで、いじめにあったりするのではないかと心配。（安定しているので、支援学級の利用はもうなくてもよいのではという希望的観測ももっている様子も見受けられた）
4年前（小2）の来所相談時の主訴 ・漢字がなかなか覚えられない。ノートが時間内に書き終わらない。 ・クラスのペースに合わせることができず、ついて行けない場面がある。 ・時折、パニックになり、暴言を吐いてしまったことがある。
【家庭環境】 ・父、母、妹、祖父、祖母の6人家族 ・両親ともに、本児への理解はある。ただし、支援学級の利用に関しては、祖父の理解がいまひとつ得られていない。
【家庭での様子】 ・宿題は時間がかかるが、必ず終わらせるようにしている。 ・家では、パソコンでYoutubeの動画等をよく見ているが、図鑑や歴史のマンガ参考書を読むことも大好きとのこと。
【幼少時の様子】 ・言葉を話すのが遅かった。 ・近所の友達とは全然遊ばなかった。 幼稚園では *一人で絵本を読むことが好きだった。 *玩具などを一列にきれいに並べることが多かった。
【入学後の様子】 <学習面> ・低学年までは成績は中ぐらい ・好きな教科 社会 ・嫌いな教科 図工、国語（漢字）、算数（図形） ・漢字は形が整わず、偏や旁をよく間違える ・暗記は得意、図鑑や歴史のマンガが大好き <行動面> ・穏やかな性格で、交友関係は良好。交流学級の子どもが本人をよく理解している。 ・複数の友人がいて、お互いに行ったり来たりしている。 ・学校も喜んで行っている。 ※支援学級は小3から利用 学習面も個別でいい指導・支援を受けてきた 交流学級の担任も理解があり、特別支援学級担任との連携もとれている。

【その他】

パソコンが好き

スイミングには週2回通っている。

玩具のゾイド（恐竜のロボット）をコレクションしている

【検査結果】

	合成 得点	パーセンタ イル順位	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査 IQ (FSIQ)	86	18	81- 92	平均の下—平均
言語理解指標 (VCI)	93	32	87-101	平均の下—平均
知覚推理指標 (PRI)	74	4	70- 84	低い（境界域）—平均の下
ワーキングメモリー指標 (WMI)	100	50	93-107	平均—平均
処理速度指標 (PSI)	91	27	84-100	平均の下—平均

【検査時の様子】

検査時間は80分。検査者とも面識があり、スムーズに検査を開始することができた。検査中の態度はとても素直で、どの課題に対してもまじめに取り組み、ことばによる質問の課題に対しては、最後まで諦めずに粘って回答する様子が見られた。小学校2年生の時に一度検査を実施しており、その時のことを覚えているか尋ねたところ、ほとんど覚えていないとのこと、実際に課題に取り組む様子からも、問題の内容を覚えているという様子はほとんどなかった。質問に対して、回答に加えて、自分の経験談などを自ら話してくれることもあり、穏やかで人なつこい性格がうかがえた。

<言語理解の下位検査の様子>

・言葉の共通点を考えたり説明したりする課題では、こちらの求めるシンプルな回答に対し、難しく考えすぎる様子が見られた。ことばを違うことばに置き換えるような課題では、知っていることばをたくさん使うが、必要以上の情報を加えたりして、むしろわかりにくい説明になってしまうような傾向が見られた。日常生活における対処法や規範の理由を考え説明する課題では、自分の経験に基づく範囲で精一杯答えようとする姿勢が見られ、最後まで答えていた。

<知覚推理の下位検査の様子>

・積木を使って見本と同じ模様を作る課題では、見本を少し斜めから見て取り組む様子が見られ、また見本と同じように組み合わせることは、形が複雑になるにつれ、諦めるのが早くなっていった。
・複数の絵から同じ仲間を見つける課題では、共通の概念を見つけ出すことが比較的できていたが、複数の図形から法則を見つける課題は苦手さが見られた。

<ワーキングメモリーの下位検査の様子>

・言われたことをルールに従って復唱する課題においては、単純なルールよりも、複数のルールに従った方が得点できていた。意識を集中することを促せば、しっかりと聞く力はもっていることがうかがえる。算数の文章問題を暗算で解く課題も、頭の中で問題を整理しながら正解を導こうとする様子が見られた。

<処理速度の下位検査の様子>

・ルールに従って、できるだけ早く見本通りに記号を書き写す課題、同じ記号があるかどうかをできるだけ早く正確に見分ける課題、いずれにおいても、速さを気にするというよりは、ゆっくりとマイペースで取り組んでいた。